

会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

新型コロナと皮膚科

札幌市医師会
本間皮膚科クリニック

ほんま こういち
本間 光一

新型コロナが起きてもう2年になります。日本中いや世界中で大きな変化を引き起こしています。会員の皆様も大きな負担を強いられている方、特に治療の最前線で頑張っている方も多いかと思えます。札幌市の北の外れで皮膚科を開業していますが、幸いにも当院ではあまり影響がありません。麻生太郎氏がマスクをしていると顔がかゆくなり皮膚科が混んでいるようなことを言ったそうですが、そんなことはありません。皮膚科は夏暑いと混みますので昨年は混みました。ある患者さんが言っていました。「皮膚科なら大丈夫と思って来たがみんな同じこと考えている」。一般的な認識がそのようらしいです。

感染症対策を一通りしていますが、その中で空気清浄機を導入しました。空気犬みたいな名前のものです。きっかけは北海道医報に同封されていたパンフレットでした。フィルターが不要でメンテナンスが安く容易とのこと、さらに信頼できるものに同封されていたので即購入しました。まだ一般向けコマーシャルがなかった時点でしたので導入は早かったと思います。今では各種のCMで見ます。患者さんにも浸透しており時折「これ空気犬ですよ。効きますか?」と聞かれます。でも効果は分かりません。前後の比較がないからです。ですが当院では導入して気を付けていますよというアピールにはなっています。たまに中の装置を水洗いしますが、真っ黒くなった水を見ていると何かしら機能しているように感じます。

とにかく一刻も早く収束して安心して日常生活を送れるよう祈るばかりです。

冬囲いに思うこと、雑感

札幌市医師会
あしりべつ病院

うちがた いちろう
内潟 一郎

毎年秋から冬にかけてしなければならない、一つの義務がある。それは庭の冬囲い。狭いとはいえ、わが家の20坪程の庭は妻の聖域であり、空間である。

趣味で春～夏～秋と丹精をこめて 桜・杏子・ブドウの木を植え、チューリップ・あじさい・バラなどの花の手入れに余念がない。これらの造形物は見事な彩りと姿で目を楽しませてくれる（時には舌も）。

私、個人は園芸の趣味は持ち合わせていないので、普段はそれ程の関心も示さず、天気の良い休日などに、ちょいと気楽に庭にイスなど持ち出して、インスタントアウトドア時間を楽しむ。それらの自然の美の中で観賞し、時にはビールなど飲みながら読書、うたた寝するのは一時の至福の時間である。

妻の言い分は「草木、花の美しさは毎日の手入れがかかせず、雨が降らなければ水をかけてやり、木に害虫が発生すれば、これを駆除し、雑草を取る。そういう手入れがあって初めて成り立つのであって、何も実行しないでただ鑑賞し楽しむのは、いいところ取りでずるい」と言う。まことにもっともな言い分である。

あげくは隣家の御主人は、雑草取りから水まきなどこまめによく働くと、話の論点がずれてくる。隣の芝生はよく見えるではないが、こういう話に逆らっては勝目がないので、秋から冬にかけての最後の冬囲いだけは文句を言わずに手伝うことにしている。

半日かけて落葉を袋に詰め、バラの枝を枝切りバサミで切り取り、束ね、月に1度の枝葉回収のゴミ出し日に間に合うように、せっせと働く。最初のうちは外で体を動かすほどよい筋肉の疲労感もあって、一種の幸福感を感じるも、やがて、慣れない作業でしだいに手がしびれ、腰が重くなり、バラの枝のトゲが刺さったりで、終わり頃にはくたびれはてしてしまう。

人生楽あれば苦ありか、こうやってちゃんとバランスがとれているんだなー。こうやって1年も終わり、花も木も来春にはまた、新しく芽を出し、花を咲かせるのか。これが生命の循環というものかなど取り留めのないことを思いながら、時が過ぎていく。